高橋香樹担当

臨　書　課　題

（六月二十二日締切）

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

1、字句＝白駒

2、形式＝半切タテ使用。中央に「白駒」と臨書し、左余白に「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観＝○包みこんだ筆線

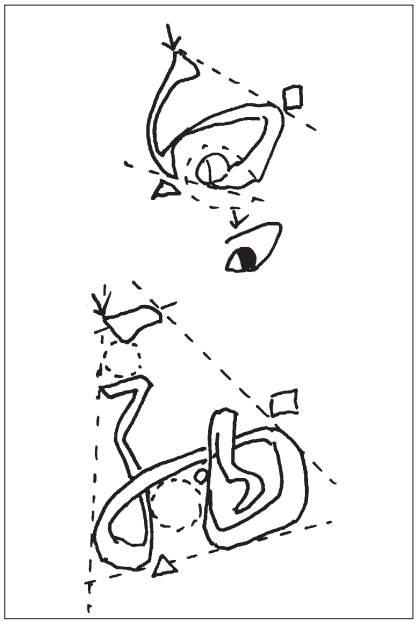
右旋回の用筆でまわりこもうとする筆線を、折れの気分を加えながら、更に筆圧を加えた感じで、二段構えで包みこんだ線があります。これは筆線に「めり」・「はり」をつける結果となっています。上掲の「両」・「物」は転折からあとの筆線が二段構えとなった状態といえます。「特」は最後のハネに当たる部分ですが、やはり、包みこむような筆線といえるでしょう。

これも懐素特有の筆致といえます。

4、各字のポイント

白　真上から点を打つ感じで入筆。筆を引き上げて左に移動し、△で右下に、ここで、裏面鋒先で右上に持ち上げ、徐徐に圧を加え、□で表面とし、左に移動、ちょっとわかりにくいが「白」と結ぶ。

駒　一画目上から厳しく入筆、突き右上に。少し余白を取り二画目へ。△で筆を突き、筆の左面を遣って押し出し、裏面にて二呼吸で□に、ここで概観で説明した包みこむような筆線。○で鋒先で連綿線。折り返して右左と運筆。偏と旁の間に余白を。



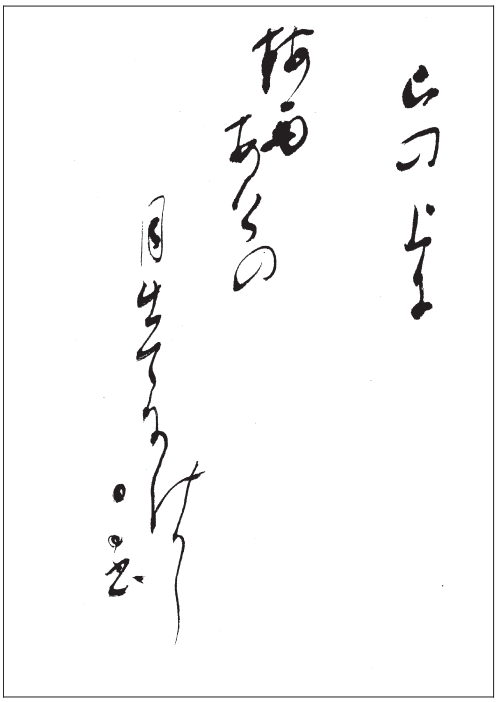
草書千字文・唐　懐素

半　紙　課　題（予　告）

（七月二十二日締切）

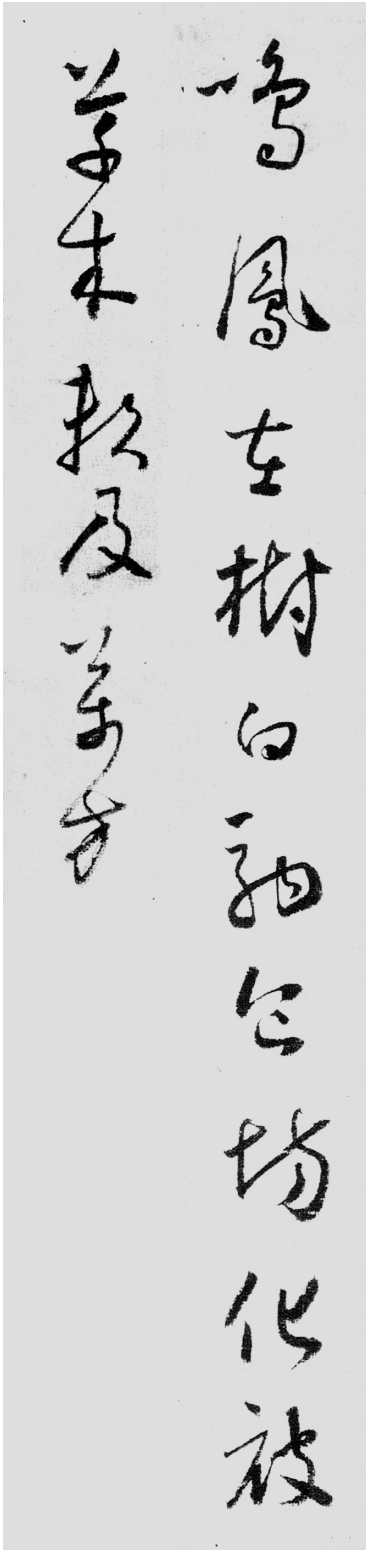
平岡華雪先生書　山晴れて石路香し（李建勲）

訳…山が晴れて石の路に香りが漂っている。



平岡華雪先生書　山の上に梅雨あけの月出でにけり（岡本癖三酔）

草書千字文　懐素



鳴鳳在樹。白駒食場。化被草木。賴及万方。

鳴鳳は樹に在り、白駒は場に食む。化は草木を被い、賴は万方に及ぶ。

天下がよく治まるときは、鳳凰というめでたい鳥が梧桐の樹にとまり、明君がよく人材を用いるときは、在野の賢者が駒に乗ってやって来て、その駒が牧場で草を食らう。明君の徳の及ぶ所、人だけでなく、地上の一木一草までみなその所を得、王の徳化はすべての国々にまで及んだ。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

一字書（六月二十二日締切）

課題

路

(1)書体自由

(2)半紙タテ　※ヨコは中止

(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4)出品料　四四〇円

(5)バーコード券貼付　太枠内の臨昇の隣の空欄に

一字と記入　段級は無記入

条幅部漢字課題参考　（六月二十二日締切）

A

鈴木静村先生書

塔鈴自觸微風語　灘石長磨細浪圓（釈明本）
塔鈴（とうれい）おのずから微風に触れて語り、灘石長（たんせきとこし）えに細浪（さいろう）に磨（まる）して円し。

一字内の「脈絡」に留意し、運筆の円滑を徹底習熟して下さい。脈絡線は運筆の遅速、筆圧の強弱等によって表われる場合もあり、表われない場合もあります。大切なことは、続ける気持ちです。**塔**　旁の上部大きく〝口〟締める。**鈴**　偏大きく、**塔**と対応。**微**　横長形。**風**　一画から二画へ一気に。**灘**　中央頭を高く。**石**　〝口〟締めて。**磨**　〝石〟点二つに。**細**　偏の形に注意。**圓**　二画目のユレ真似ないように、ゆったりと運筆。

B

高橋香樹会長書

今月は、細線がいかに遣えるかが課題です。筆の弾力を遣っての運筆は、身についていると思っていたが、それは、起・収筆・転折においてであって、筆線においては、それがなされていないことを感じ、細線を意識的に表出するように心懸けました。墨継ぎは、「**語**」と「**細**」です。

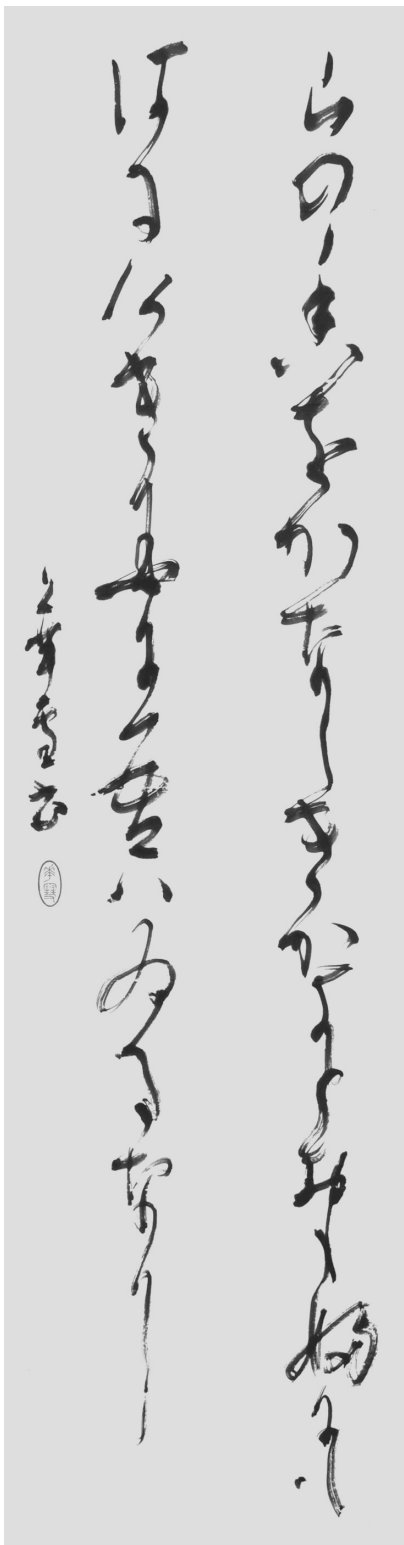
訳…寺の鈴が風に吹かれて自然に鳴り、早瀬の石は細かい波に洗われて丸くなっている。

予告（七月二十二日締切）　**野茶烹茶來獻客　巖猿偸果去呼兒（朱晞顔）**

◆**注　意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（１）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（六月二十二日締切）

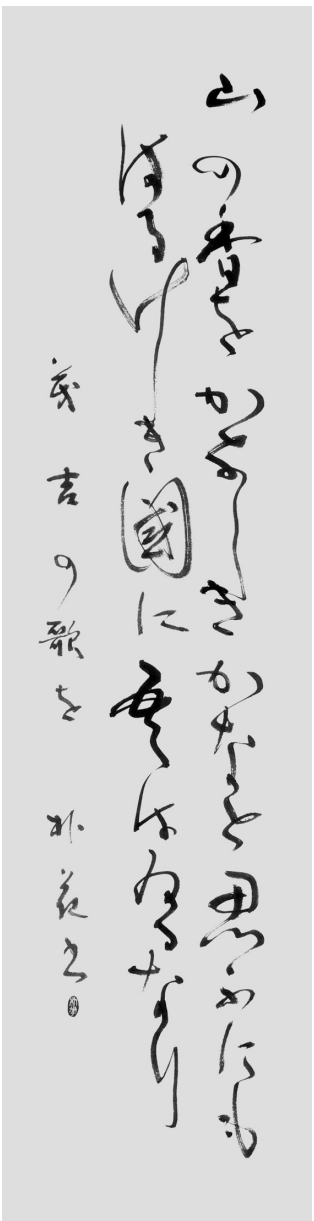
A



平岡華雪先生書

山の香をかなしきかなと思ふにも遙けき國に吾はゐるなり（斎藤茂吉）
山の香をかなしきか奈とおも婦尓もはる介き国尓吾八ゐるなり

B



向山朴花先生書

山の香をか奈しきかなと思ふにもはるけき國に吾はゐるなり

斎藤茂吉は山形県生まれ。歌人、精神科医。
大正、昭和にかけて伊藤左千夫門下、アララギの中心人物となる。歌は万葉調を基本とし、傾倒した子規の写生論を発展させて「実相観入」を作歌姿勢とした。
この歌は、茂吉が医学研究の為、故郷を離れ欧州に滞在中の心境である。代表作「赤光」はロマンチシズム溢れる、清新な歌風といわれている。

学び方

故郷の山の香りが愛しく、心に沁み入るように思えるけれども、私は今、遥か遠い国にいるのですよ、との歌意。二行の構成です。通常より二行を寄せて、紙面のやや右寄りに書いて、景色に変化をつけました。近代の歌なので変体仮名を使用せず、漢字、仮名は、本歌に近い文字で試みました。古歌では多くの変体仮名を駆使し、円滑な流れにより作品効果が得られることを痛感しました。殊に、同じ仮名文字がある際の線の生かし方の工夫は難しく感じています。又、呼応し合う二行が邪魔し合うことなく、補い合う形体で表現する工夫も学びました。
現代の人が共感する書と、芸術性を高め追求する書表現は、創作上の課題です。大切なことは、歌の意味を理解して「伝えたい言葉」を確かに表現出来ればと思います。

予告（七月二十二日締切）　**中空に湧きつゝ消ゆるちぎれ雲時の間ながら照りてただよふ（若山喜志子）**

◆**注意**
・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条　幅　部　随　意　参　考

高橋紫芳先生書

臥聞疎響梧桐雨。獨詠微涼殿閣風。（蘇東坡）
臥して聞く疎響梧桐の雨、独り詠ず微涼殿閣の風。

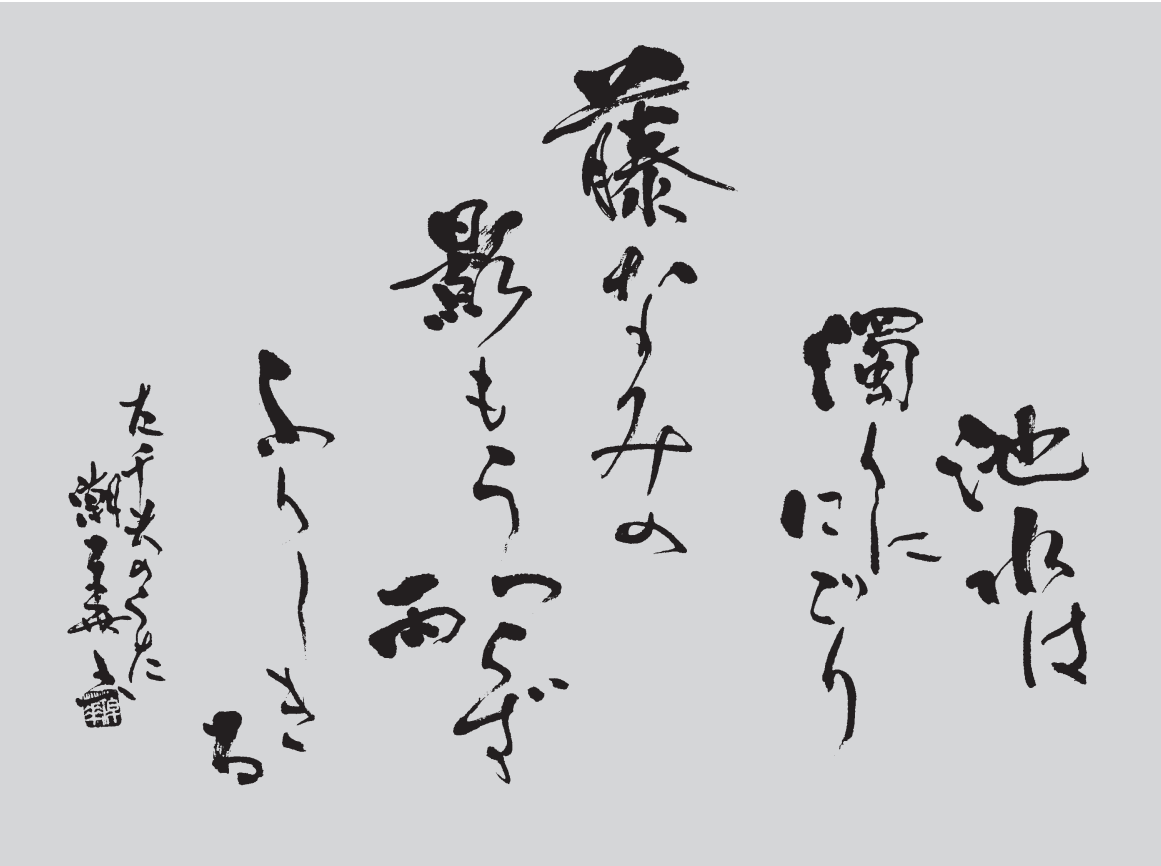
訳…臥しながら梧桐に降りそそぐ雨を聴き、そよぐ二階の涼風にはひとり詩を作る。

森多富先生書

栗の木の花さく山の雨雲をわけくる人に鳴くかよしきり（長塚節）
栗の木能者那さ久山の阿万雲越王希倶る人二なく可与しき里

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

漢字かな交じりの書課題参考　（六月二十二日締切）



水貝潮華先生書

池水は濁りににごり藤なみの
影もうつらず雨ふりしきる
伊藤左千夫

今月の課題は半紙をヨコに使って作成しています。「藤なみの」を中央に配し、山型に構成した作品です。

「池水に濁りににごり」を一つの塊（かたまり）にし、中央の「藤なみの」は少し大きめに、墨量も多く『山場』とします。そして、単調さを打ち破るため、「雨」を「うつらず」の揺らぎの中で出来た空間に、単独で置いています。最後に行を変え「ふりしきる」で静かに収めました。

紙面の下部に少し余白を持たせる事で、息苦しさを無くし、すっきりと見せることが出来ます。

伊藤左千夫（一八六四～一九一三）

歌人。小説家。牛乳搾取業のかたわら、一九〇〇年に正岡子規門下に入り、新しい短歌運動に加わる。根岸短歌会の「馬酔木」を創刊。その後「阿羅々木」に移り、斎藤茂吉・土屋文明・島木赤彦らを育てた。「野菊の墓」など小説でも活躍。死後に「左千夫歌集」「左千夫全集」刊行。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。
①バーコード券右空欄に漢かと記入　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢　字　部　課　題　参　考　（六月二十二日締切）

平岡華雪先生書

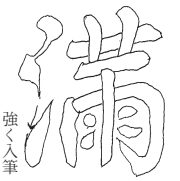
身外満牀の書（杜甫）

訳…室内は蔵書に満ちている。

〈少々、筆休めに―〉

「満」この字の旁の書き方は多い。

字典で調べ覚えると便利。



「牀」（＝床）

〝爿〟しょう偏、字典で確かめを。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

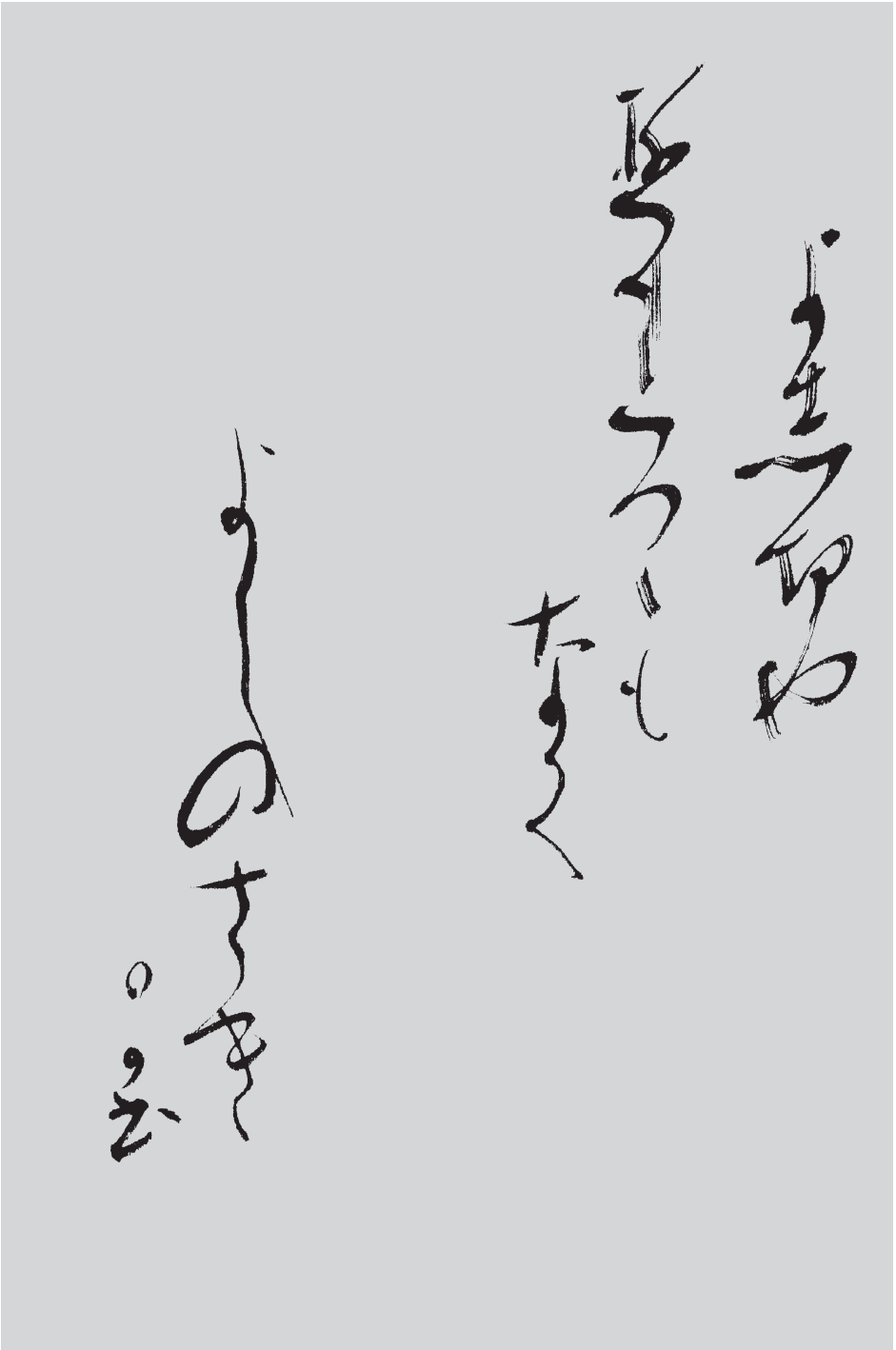
平岡華雪先生書

よしきりやゆれつつもなくよしの先（秋桜子）

よ志切や遊連つゝもな久よしのさき

〈気張らず、自然体で〉

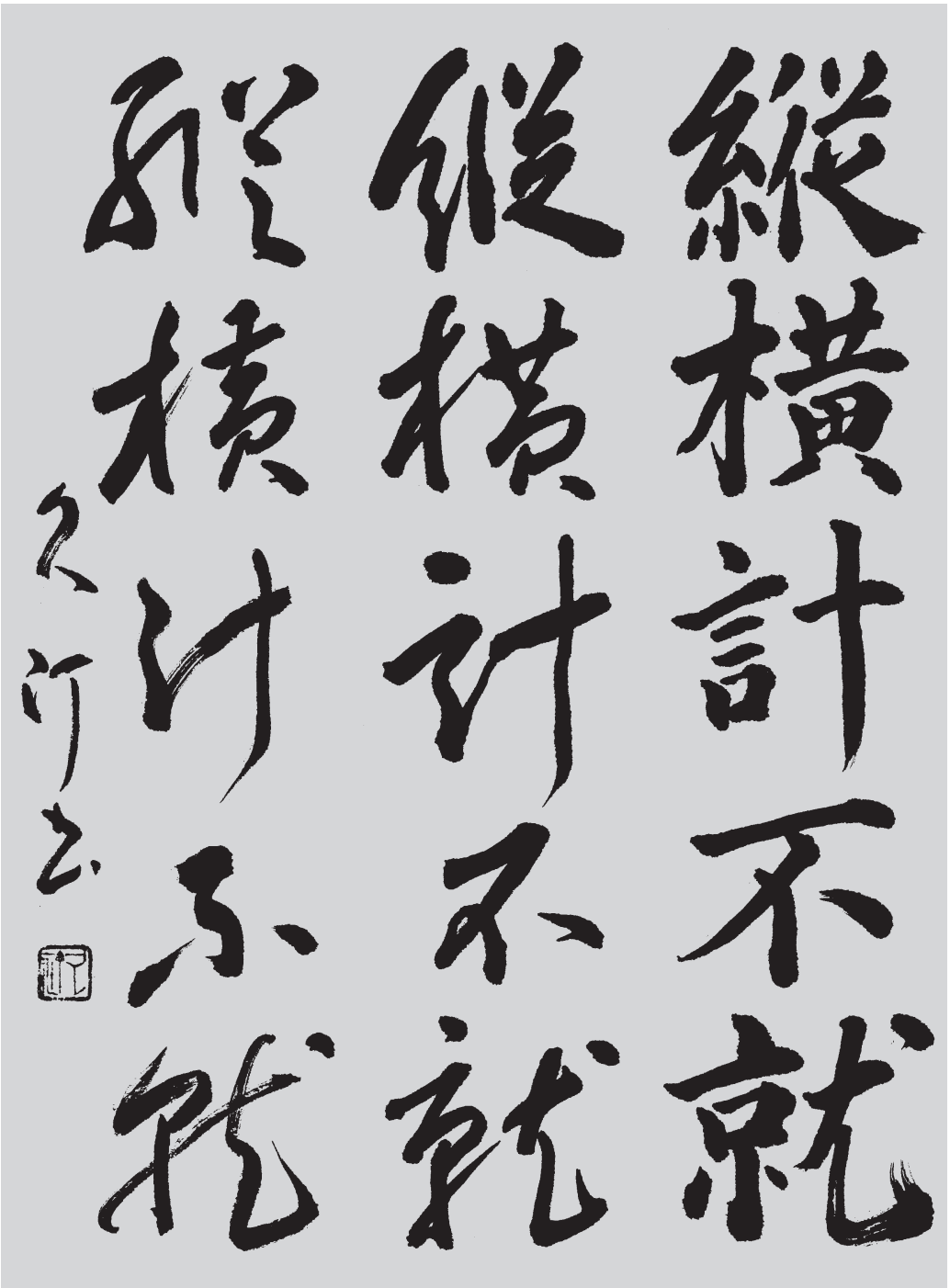
変体がな〈志、遊、連、久〉の四字、既に何回か精習されており、この欄では特に取り上げません。各自事前に復習のこと。右群の四字連綿、五字連綿をリズム的に淡々と運筆。「な久」サラリと寄せて左群へ。「の」やや力感。「さき」は鎮めて。



◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。
①かな部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

笹崎久汀先生書

縱横計不就（魏徴）
縱横計就らずとも



訳…弁舌の力で天下を統一しようとした計画は完成しなかった。

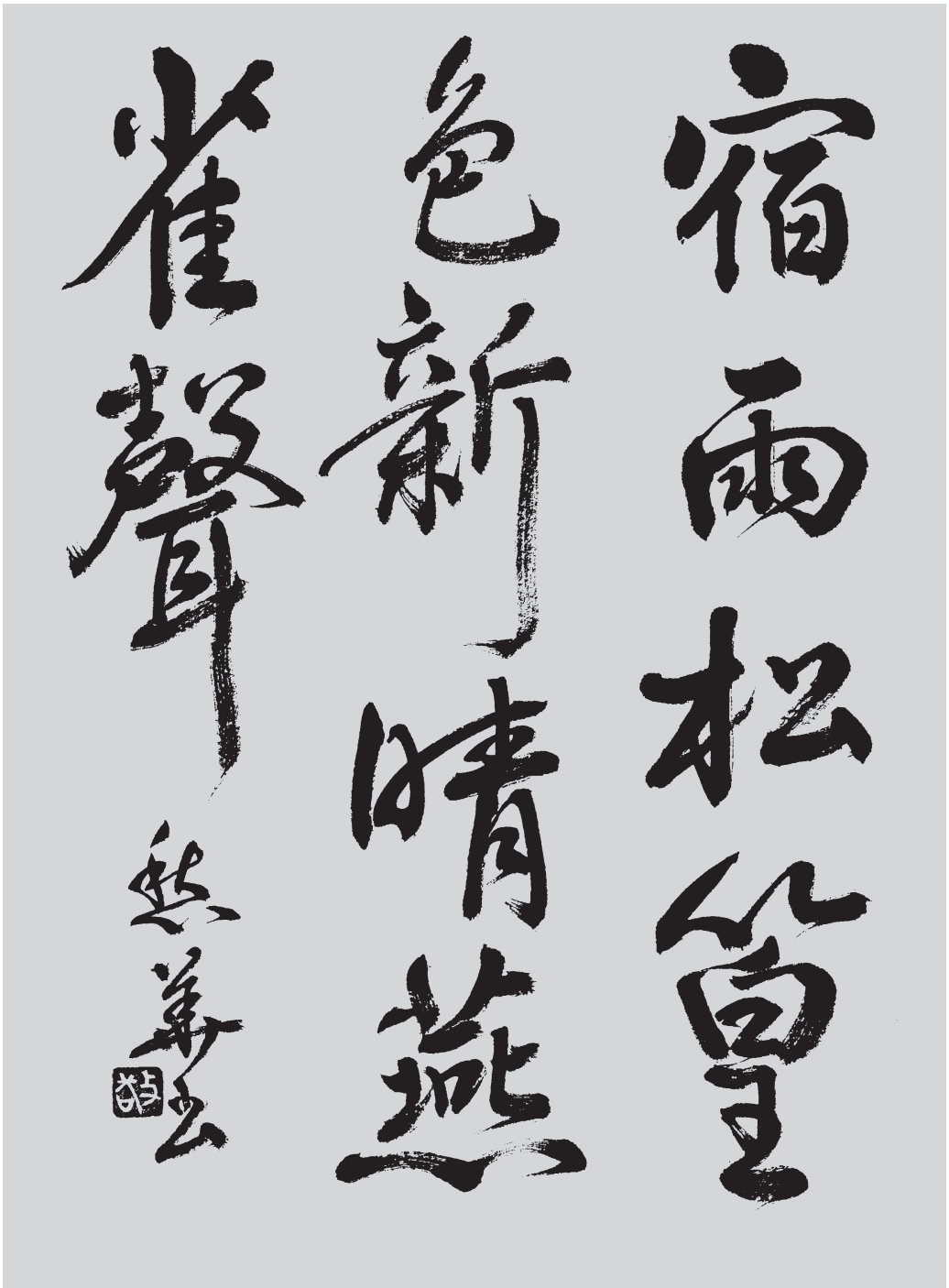
1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円。

随　意　部　参　考

石田愁華先生書

宿雨松篁色　新晴燕雀聲（范石湖）

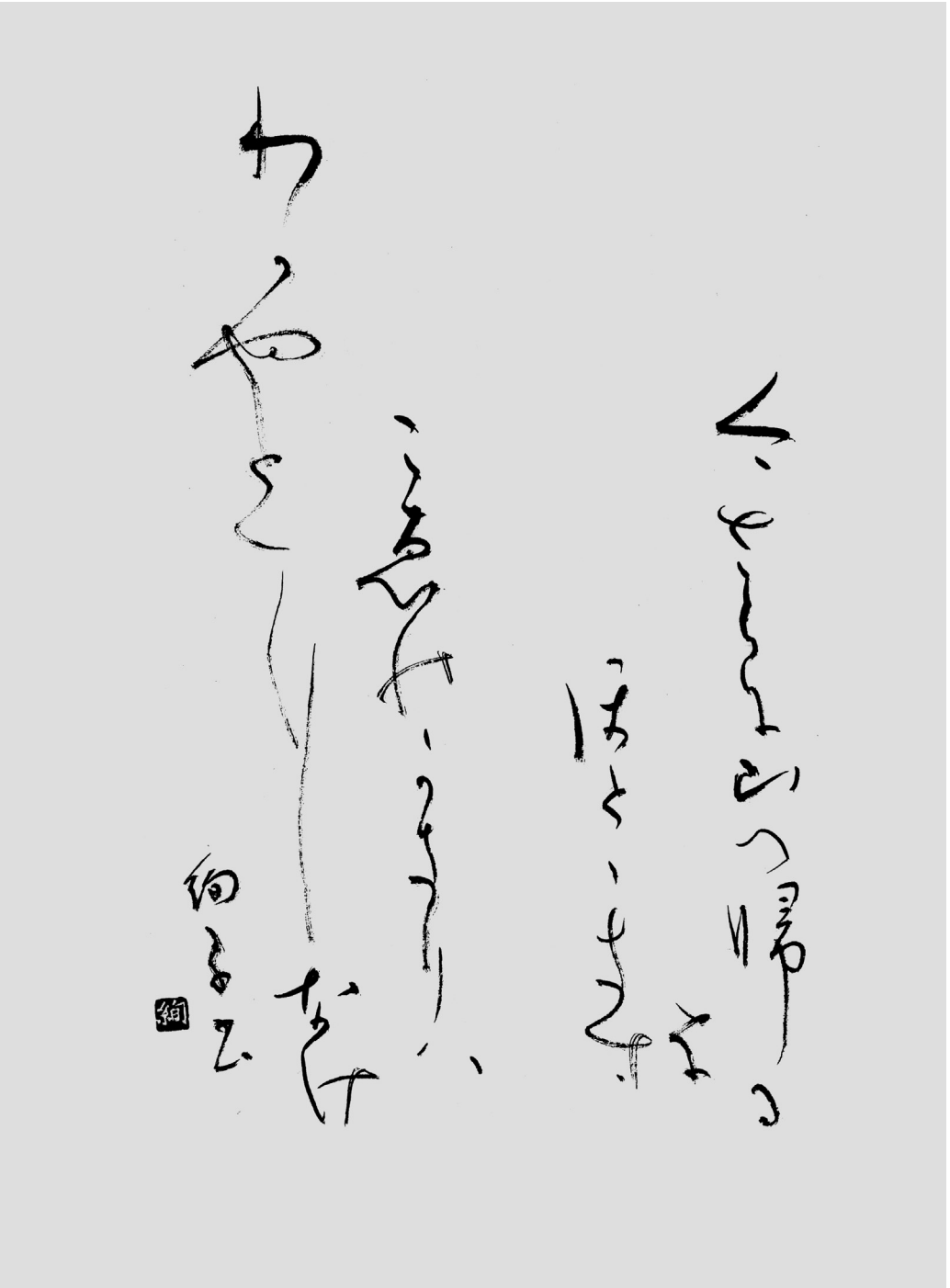
宿雨松篁（しゅくうしょうこう）の色（いろ）、新晴燕雀（しんせいえんじゃく）の声（こえ）。



訳…降りつづける雨は松や竹の色にも見え、初めて晴れた天気に燕や雀は嬉しげに鳴く。

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円

随　意　部　参　考



宮　絢子先生書

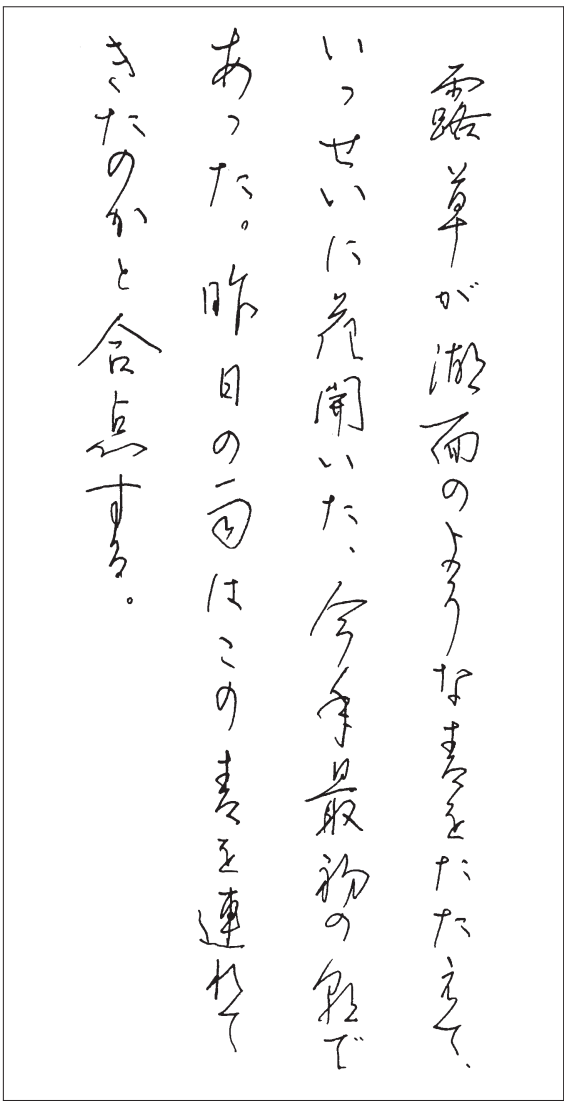
いまさらに山へ帰るなほとゝぎすこゑのかぎりはわが宿になけ（古今和歌集　読み人しらず）
今さら尓山へ帰る奈ほとゝ支寸こ恵能可支り八わ可やど耳なけ

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は460円

硬筆部課題参考　（六月二十二日締切）

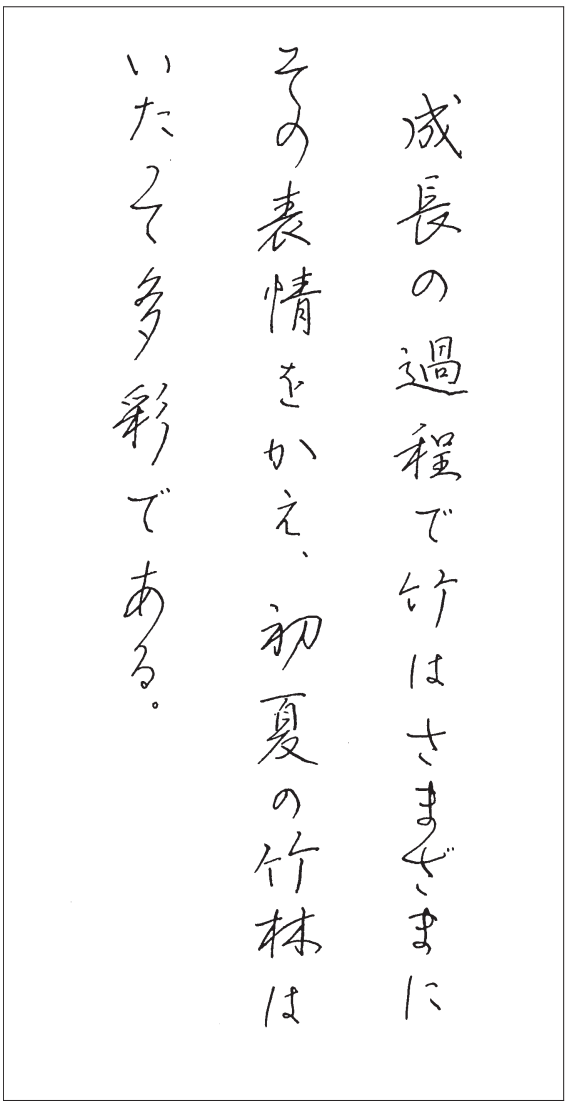
石原春香先生書

課題 1　（初段以上）



湯澤春翠先生書

課題 2　（初段格以下）



課題1（初段以上）

露草が湖面のような青をたたえて、いっせいに花開いた、今年最初の朝であった。昨日の雨はこの青を連れてきたのかと合点する。

「冬虫夏草」　梨木香歩

◆**注意**

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）

(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2（初段格以下）

成長の過程で竹はさまざまにその表情をかえ、初夏の竹林はいたって多彩である。

「東山魁夷の世界」夏に入る

解説　星野良史